

琉球王国の外交文書—よみがえる『歴代宝案』—

歴代宝案から考える
グローバルヒストリー—
—東アジア海域論の再構成—

濱下武志

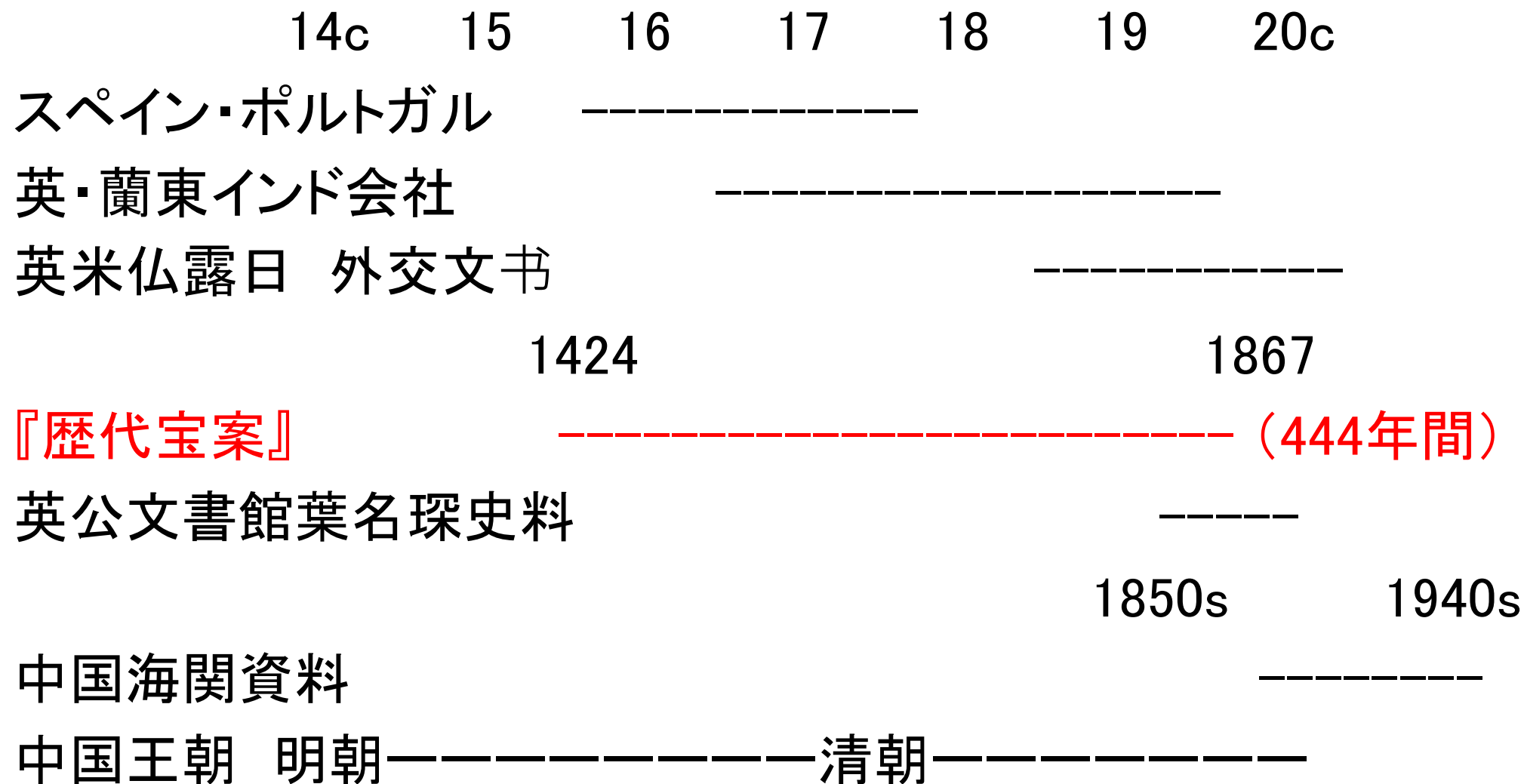
序 史料の交流・研究の交流・人々の交流

1. 『歴代宝案』校訂本の特徴—『歴代宝案』の復元
 - a. 文字校訂；文字、表現、手抄本・編集本
 - b. 資料校訂：原典校訂、補充・比定校訂、頭注
2. 『歴代宝案』訳注本15冊
3. 解説・解題、資料目録
4. 用語集
5. 『歴代宝案』関連資料集

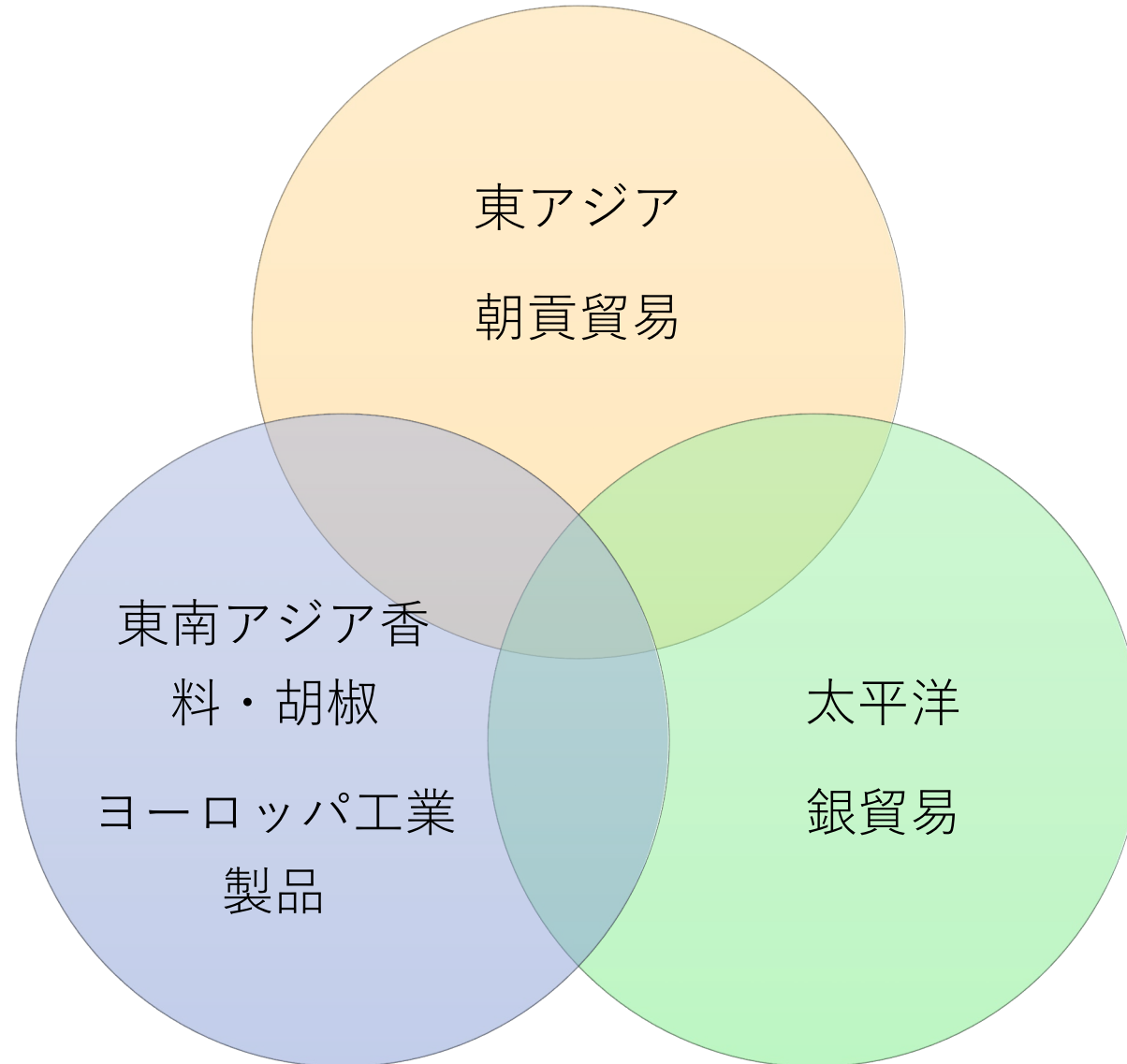
* デジタル化 [琉球王国交流史・近代沖縄史料デジタルアーカイブ](http://ryuoki-archive.jp)
| [本サイトについて \(ryuoki-archive.jp\)](http://ryuoki-archive.jp)

* 沖縄県教育庁文化財課 史料編集班

1 グローバルに重なり合う『歴代宝案』史料



2 琉球の海域ネットワークの広がり と 繋がり

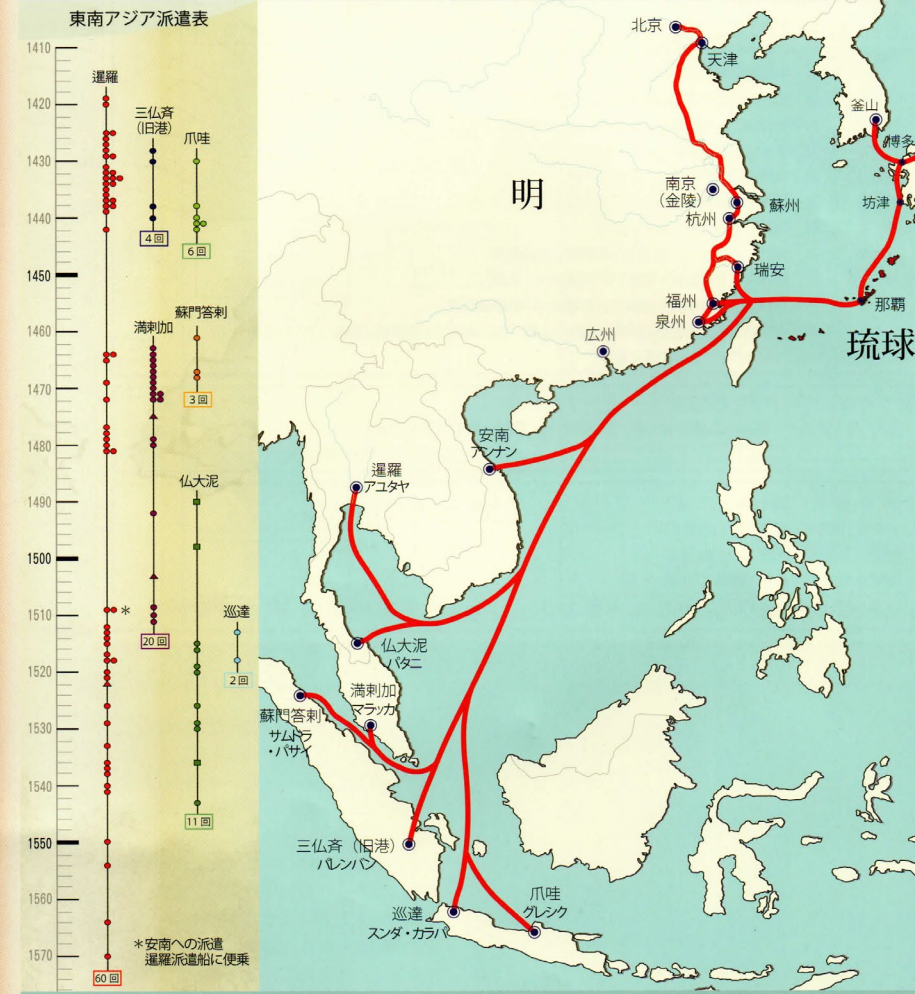


3 第一集(1424-1697年)

- 明代に対応: 文書行政(「歴代宝案の栞」5-6頁)
- 東南アジア・東アジアとの朝貢貿易
- 旧港(パレンバン)
- 九州からの漂流民送還
- 琉球の仲介
- 鄭和遠征(1405-1433年)の地方記録
- 旧港の華人社会とその統治
- 「歴代宝案の栞」7頁。



◆ 歴代宝案第一集の世界 (1424 ~ 1697)



※ この図は『歴代宝案』第一集に収録された文書から作成した琉球とアジア諸国・地域との交易関係の概念図である。接続線は航路を示すものではない。作図においては『沖縄歴史地図』(柏書房 1983年)を参照した。
※ 東南アジア派遣表は『歴代宝案』第一集(表上の●)、家譜資料(表上の■)、その他(表上の▲)を基に作成した。

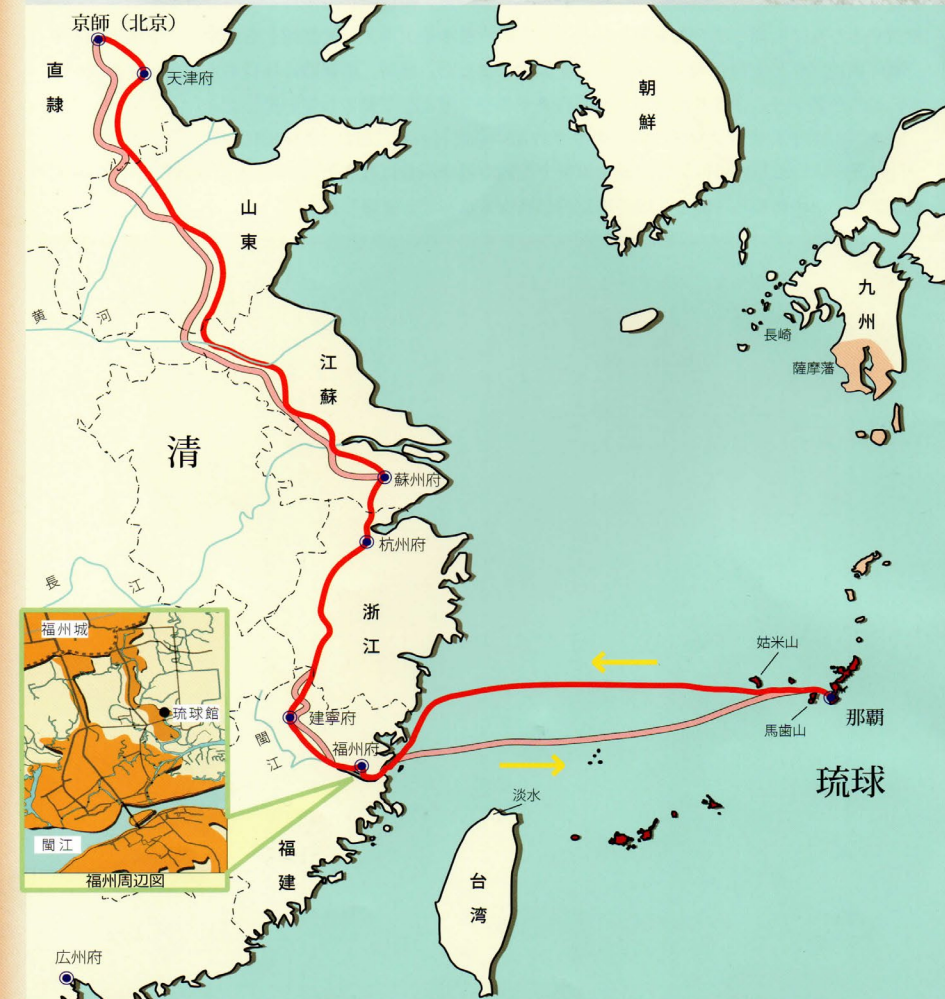
4 第二・三集(編年史) (1697-1858, 1859-1867)

- 第一集と第二集の編集の違い(『栞』3-6、9頁)
- 明から清へ: 朝貢国相互の交流を制限
- 台湾 鄭氏一族
- 東南アジアとの朝貢関係の強化
- 澳門 ポルトガル
- スペインの太平洋ガレオン船による銀・生糸貿易

『歴代宝案』を超えた空間の中の琉球海洋交易ネットワーク

- 福州貿易と琉球(イギリス綿布、薩摩・日本)

◆ 歴代宝案第二・三集の世界 (1697 ~ 1858・1859 ~ 1867)



※ この図は『中国歴史地図集 第八冊 清時期』(地図出版社 1987年)を参照し、魏学源『福建進京水陸路程』に基づいて那覇から北京への往路は赤、復路はピンクの線で示した概念図である。
※ 福州周辺図は、野上英一『福州攷』付録「福州市街図」(吉村商会印刷所 1937年)を基に作成した。

5 スペインとポルトガルによる海洋分割とアジア・太平洋の海洋交易

1494年のトルデシヤス条約で定められた子午線

1529年のサラゴサ条約で定められた、モルッカ諸島の子午線

<スペイン> 1545年ポトシ銀山(ペルー、ボリビア)、**1571年マニラ建設**

<ポルトガル> モルッカ諸島、14世紀末～1511、マラッカ王国: 1511年ポルトガルがマラッカ占拠、1557年ポルトガルのマカオ進出

マニラに拠点を置いたスペインは、アジアとの直接貿易はできなかったが、福建商人を雇い入れ、中国とマニラを結ぶ銀・生糸貿易に参加させた。

琉球商人も、東南アジアの一般産物を中国に運ぶのではなく、生糸や胡椒をルソン島に運ぶという形で、この貿易に参加した可能性がある。

6 琉球とマニラとの交易：

スペインと琉球の交易の記録(1519-1738年)の中で、琉球に59回言及

- (1)琉球の名称と所在地
- (2)交換・取引の場所
- (3) 琉球列島の形と構成、生活環境
- (4) 日本・薩摩藩と琉球の関係
- (5) 中国と琉球の朝貢関係

* 毎年6～8隻の琉球帆船がルソン島に寄港

* 琉球は日本の銀で生糸を買う

* 北ルソンに中国人と日本人がいる

出典：Emma Blair and James Robertson, ed, *The Philippine Island*, (55-volumes) Cleveland, Ohio, The A. H. Clark company, 1903-09.1911. Vol.29, pp.30-31.

7 重層する琉球の交易ネットワーク(明代・清代・清末)

官の海域管理

民の海域経営

- | | | | | |
|---|---------------------------|-----------------|-------|---|
| 1 | 朝貢 | <天后綬爵> | 媽祖 | 、 |
| 2 | 北京会同館 | <国王附搭貨物> | 朝貢交易 | 、 |
| 3 | 福州交易 | <開館・互市、広州・蘇州交易> | 市場と交易 | 、 |
| 4 | 漂流民送還 | | 移動と漂流 | 、 |
| 5 | 銀・胡椒・生糸のグローバルな交易ネットワークに参画 | | | |

8 北京の朝貢貿易：福州と北京の往復

琉球からの朝貢品

琉球国王からの付搭貨物

	馬	硫黄	刀劍	象牙	香料	丁香	壇香木	胡椒	蘇木	錫	銅	胡椒
1474:	15	20000	*	200	300	200	200	1000	8000	500		1500
1529:	4	10000							1000	銅	1000	
1571:	4	10000	*		100	蘇木	1300	2000				

<明清交代期>

1638: 蔡堅6回目の進貢使節、福州で白糸を納税買付の許可

1644: 10 20000 貝 3000 個 夏布200反

単位: 斤、1斤=600g、赤字は初出の品物

9 琉球の福州貿易：1851年イギリス駐福州領事報告

1 北京への使節派遣と福州貿易

2 牙行を派遣して蘇州と広州での買い付け

3 広州でイギリス綿布・東南アジアの特産品の買を付け、蘇州で絹の買い付け

4 牙行への支払いは金と銅

5 銀・胡椒・生糸

6 スペインとポルトガル

10-(1) 1851年琉球の福州貿易品一覧（1）

- 1 広東交易（福州経由の） a広州からジャンク、b広州から潮州まで陸路、潮州から福州までジャンク
 - a イギリス製品・広幅・長寸の綿布
 - b 中国製品：漢方薬材・水銀・高級生糸
 - c 外国製品（東南アジア）蘇木20000斤、人参

- 2 蘇州交易と上海交易（福州までジャンク）
 - a 金紗ちりめん・絹織物・縹子（しゅす、サティン）
 - b 国王のための購入品20000ドル：扇子・絨毯・茶・朱色の染料
 - c 蘇州と共に上海でイギリス綿布を買い付け（福州へジャンクで）

10-(2) 1851年琉球の福州貿易品一覧 (2)

3 福州での購入品

a イギリス製品：綿布

b 中国製品：福建紙・油紙・白砂糖・竹細工・紅茶・緑茶・線香

c ツバメの巣・

4 国王と王府のための購入品10000ドル：砂糖・漢方薬

5 琉球側の購入資金：純度の高い日本金貨・銅貨（薩摩貿易）

6 牙行に高額の手数料を支払う。

10-(3) 1851年琉球の福州貿易品一覧 (3)

7 牙行（特許・独占商人）を用いた買い付け

a 福州の10の牙行のうち一つは琉球貿易を専門に担当

b 広州の牙行、蘇州の牙行、上海の牙行を利用

c 他に広州－廈門、広州－潮州、上海－福州の間でジャンク船を利用

8 イギリス側は琉球側と接触を試みるも拒絶される。

（注）出典：Chas. A. Sinclair at Foochow: British Consulate Foochow, to The His Excellency Sir George Bonham, KCB, Her Britannic Majesty's Plenipotentiary (18, June, 1851, F0228/128, pp.72-82)

このイギリス側の資料は、『歴代宝案』第2集 第192巻 第21号文書（校訂本第14冊、140 - 143頁）咸豊2年5月8日付文書の内容の一部に対応すると考えられる。

11 琉球の海洋交易ネットワークの三層構造

- 1 東アジア海域から見る朝貢関係の中の『歴代宝案』の世界
- 2 『歴代宝案』の世界が示す多様な海洋交易ネットワーク
- 3 『歴代宝案』が示唆するローカルとグローバルな海洋交易ネットワーク（広州でのイギリス綿布の買い付け、日本との取引と福州での買い付け、マニラでの銀の取り引きなど、ローカルとグローバルなネットワークに参画する）
 - * 琉球＋マニラ銀貿易
 - * 琉球＋広州貿易（東南アジア・ヨーロッパ交易）
 - * 銀の流通。生糸の流通 乾隆28年10月土糸5,000斤を二蠶湖糸
 - * 東南アジア特産品（胡椒・蘇木）の取り引き、広州・上海を介したイギリス綿布購入

まとめ 『歴代宝案』から導く琉球・沖縄史研究の新たな課題

- 1 グローバルな胡椒・生糸・銀の流通ネットワークに参画
- 2 明清交代期、朝貢関係を活用した東南アジアと東アジアの多様な交易ネットワークの形成
- 3 アメリカ大陸・ヨーロッパとの交易ーアメリカ大陸の銀貿易への対応
- 4 『歴代宝案』から導き出す社会・生活・言語文化・海洋気象・衛生・疫と病等の課題
- 5 琉球の歴史文化・海洋文化の研究(媽祖と天后信仰圏(GIS)など)
- 6 19世紀中葉の東アジアの変化:朝貢貿易から税関による貿易管理への移行問題